

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。
■文中で旧 URL (<http://www.nougyou.kitakami.iwate.jp/agri/>) を記載している場合、新 URL (<http://i-agri.net>) に読み替えてください。

平成14年 1月

病害虫防除技術情報

No.13 - 7

岩手県病害虫防除所

コナガの主要薬剤に対する感受性の現状

- 1 H10～13年にかけて、現地多発圃場や無防除圃場から採取したコナガについて、主要薬剤に対する感受性を検討した。
- 2 クロロニコチル剤では大幅な感受性の低下が確認された。I G R 剤、および一部の B T 剤(死菌製剤)でも感受性の低下事例が見られた。
- 3 B T 剤(生菌製剤)、コテツフロアブル、アフーム乳剤およびスピノエース顆粒水和剤については、感受性の低下は認められなかった。

1 検定方法

(1) 供試薬剤

I G R 剤：カスケード乳剤、ノーモルト乳剤、アタブロン乳剤

B T 剤(死菌製剤)：トアロー水和剤、ガードジェット水和剤

〃(生菌製剤)：バシレックス水和剤、ゼンターリ顆粒水和剤、
デルフィン顆粒水和剤、エスマルク D F

クロロニコチル剤：モスピラン水溶剤

その他：コテツフロアブル、アフーム乳剤、スピノエース顆粒水和剤

(2) 処理方法

キャベツ葉または人工飼料に常用濃度の薬液を処理し、風乾後にシャーレに移し、4 齢幼虫を放してふたをし、恒温器(20～25)で飼育した。

(3) 調査方法

処理1、2、3および5日後に生存虫数(幼虫、蛹)と食害程度を調査した。

2 薬剤感受性検定結果

I G R 剤：カスケード乳剤は、補正蛹化率が低いものの、食害が多かった。

ノーモルト乳剤、アタブロン乳剤は、補正蛹化率がやや高い事例が見られ、感受性が低下していると思われた。

B T 剤：死菌製剤は、平成10年には補正蛹化率が低かったが、平成11年度以降はやや高い事例が見られ、感受性が低下していると思われた。生菌製剤は、いずれも補正蛹化率が低く、感受性が高かった。

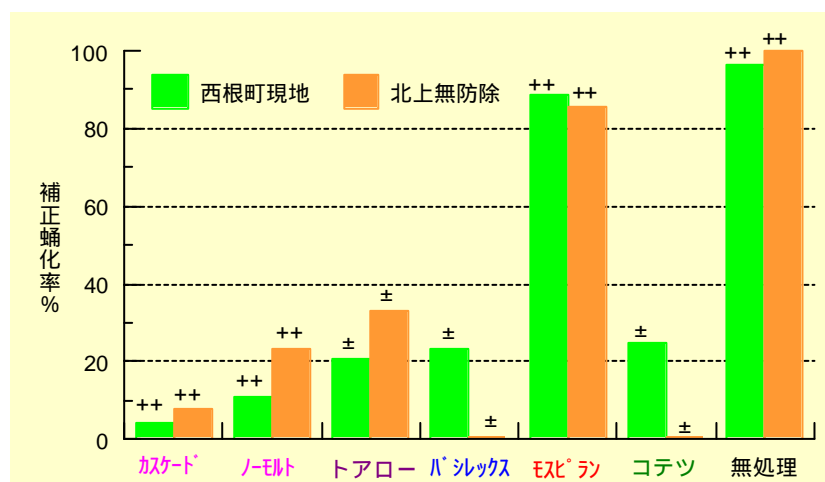


図1 コナガに対する主要薬剤の感受性検定結果(H10)

補正蛹化率 = (5日後生存虫数 - 1日後蛹化数) / (供試虫数 - 1日後蛹化数) × 100

食害程度 ++: 多 +: 中 ±: 少

